

専門分野を研究し、社会を担う人材を育てる

大学教員(講師)

こんな人に向いています

- ☐ 好奇心・探求心がある
- ☐ 人と関わることが好き
- ☐ 福祉に関心がある
- ☐ 社会の役に立ちたい
- ☐ 将来学校の先生になりたい

生活と密接に関わる“福祉”の学び
学生の可能性を広げ、成長を後押し

大学教員は、専門分野について学生に教えたり、研究したりします。大切にしているのは、一方的に知識や考えを“伝える”のではなく、きちんと相手に“伝わる”こと。そのため、授業では学生同士の話し合いや地域の方々との交流を通して学べる環境づくりを心がけています。私が専門としているのは、私たちの生活と密接に関わる“福祉”。さまざまな分野で生かせる福祉の学びによって、学生の可能性を広げることができるのが、この仕事の魅力です。「誰かの生活を支えたい、社会に貢献したい」と思う学生の成長を後押ししています。



この仕事についたきっかけ

子どもの頃から、学校の先生という仕事にあこがれていました。大学卒業後、特別支援学校で働く中で、障がいのある子どもたちと出会い、「子どもたちが過ごす地域社会をより良くしたい」と考えるように。深く学ぶため、大学院に進学し、教員となりました。

入職15年目

阿部 利江(アベ リエ)さん



15

大学教員(講師)



必要な資格・スキル、役に立った経験

- 大学院での学び(修士号・博士号取得)
- 福祉や教育現場でのボランティア経験
- 他者に寄り添い、サポートするスキル

お仕事の流れ

授業と学生への指導

授業は大学での「講義」や、福祉施設を訪れ、体験を通して学ぶ「演習」を担当しています。授業の内容に沿って資料をまとめたり、学生の授業の感想をチェックしたりと、事前の準備が欠かせません。



専門分野の研究

福祉施設での体験やさまざまな立場の人との話し合いを通して、学び、生きる力を育む「福祉教育」について、研究しています。その成果として論文を書き、研究者が集まる大会で発表します。



大学運営に関わる仕事

大学の運営には、授業を行う教員のほかにも、たくさんの職員が関わっています。学生が充実した生活を送れるように、職員とともに学習のプログラムの計画や管理をしています。



福祉現場の方々との共同実践

福祉の施設や団体で働いている方々と、定期的に情報を交換しています。学生の教育に生かしたり、障がいのある方々の避難計画を考えたりと、より良い地域社会づくりを目指して協力し合っています。



